

学童保育—障害児、10年で3倍 職員の非正規化進む（全国協調調査）

学童保育に通う障害児が10年間で約3倍に増えたことが3月29日、全国学童保育連絡協議会による5年ぶりの詳細調査で分かった。学童保育で働く指導員の非正規化が進んだことも判明。同協議会は引き続き量の拡大と質の拡充が必要だとしている。

調査は学童保育のあるすべての自治体に対し、2012年4～7月に実施。1,390の自治体から回答があった。また、無作為抽出により個別の学童保育も調査し、2,324の回答があった。

それによると、自閉症など障害のある子どもは1万9,639人で、2003年の6,358人に比べ約3倍に増加。学童保育に通う子ども全体の伸び（1.6倍）を大きく上回った。

同協議会は、2004年成立の発達障害者支援法が市町村に配慮義務を課したこと、障害児を受け入れる学童保育への公費の加算要件がこの10年間で弾力

化されたことが背景にあるとみている。

学童保育の開設時間は保護者の労働実態を反映して延びる傾向にあり、指導員の数も10年間で約2倍に増加。特にパートなどの非正規職員が増えたほか、年収150万円未満の指導員が全体の約7割を占めた。

学童保育の条例がある市町村は5割弱であることも判明。15年度施行予定の子ども・子育て支援新制度では、国が定めた基準をもとに市町村が条例を定めることになっている。

学童保育に通う子どもは現在約85万人で、同協議会は潜在的な待機児童は50万人以上と推計。「条例により全体の底上げが進むものと期待したい」としている。

（福祉新聞・第2618号 2013年4月15日）

お知らせ

第10回日本医療リンパドレナージ協会学術大会

開催日：2013年10月6日（日）

場 所：イイノホール&カンファレンスセンター
（〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-1-1）

大会テーマ：国家資格ごとの専門性を生かしたリンパ浮腫治療

プログラム

講演：「スキルを生かしたリンパ浮腫医療の取り組み」座長：小林範子（北海道大学病院婦人科助教）／演者：横山晶子（三州病院副院長）、木村恵美子（青森県立保健大学）、山本優一（北福島医療センターリハビリテーション科）、黒木亮介（黒木クリニック乳腺外科）、野村千香子（Abeille 治療院院長）

実技セッション：「臨床現場における実践と症例検討」座長：小川佳宏（医療法人リムズ徳島クリニック院長）、佐藤佳代子（日本医療リ

ンパドレナージ協会理事）／演者：宮本陽子（九州リンパ浮腫センター副センター長）、三原絵美（たたらリハビリテーション病院）、新谷 亨（十和田市立中央病院リハビリテーション科）、柴田克美（晩翠通り治療院院長）
ワークショップ4題など

参加費：会員 5,000 円、一般 6,000 円（※事前登録にてお申し込みください）

事前登録期間：2013年8月1日（木）～9月6日（金）

問い合わせ先：特定非営利活動法人日本医療リンパドレナージ協会（〒231-0033 神奈川県横浜市中区長者町5-85 明治安田生命ラジオ日本ビル4F）

Tel 045-325-9891 Fax 045-325-9892